

アニメ「となりのトトロ」の舞台モデルになったとも言われているここ狭山丘陵。都心から40km。狭山湖、多摩湖をすぐ隣に擁し、東西11km 南北4kmの広さを有する。地元の人たちの努力により自然環境が保護され、雑木林、谷戸、湿地等が昔の里山の姿を残しており、開発を防ぐ為、NPOが基金を募り土地所有者から土地の買い上げもしているという。

西武球場前駅に集合し皆で出発。道中最初に目に飛び込んできたのは淡緑の芽を吹いた、枝ぶりがふわっとやさしい感じのヤナギ。そして樹皮がまだらな鱗片状に剥がれているアキニレ。今が花盛りで、ショカツサイ、ムラサキハナナの名も持つオオアラセイトウ。まだ花はないがウワミズザクラの樹も多く見られ、銀色に映えて揺れるイヌシダの雄花も印象的。センボンヤリは春の花が白く咲き、イチヤクソウは花を終えた茎の上から果実を吊るしていた。小さな小さな水滴のような花中の蜜が日光を反射して輝いていたトウダイグサ。2~3回複葉の小葉は深裂ながら丸みがあり、花は薄い青紫色のジロボウエンゴサク。そしてタチツボスミレ、アオイスミレ、コスミレ、ノジスミレ等多くのスミレ類も咲き誇り、春の妖精カタクリは濃いピンクの花と淡紫の斑紋の葉で可憐な姿を見せていた。

富士信仰に由来する荒幡富士(富士塚)は村民共同で15年の歳月をかけ明治期に完成したもので、頂上からの眺望はそこに立つ者の心をほっと癒やしてくれる。

そして丘の上で威風堂々と私たちを迎えてくれたのは中峯一本桜と称されるヤマザクラで、枝々を目一杯大きく広げしかも全体に均整が取れているのは、周りに邪魔する木々が無く、自由に奔放に成長してきた証に違いない。

あつという間に桜が散っていくように、全ての存在物は無常だという。小野小町は「花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに」と詠んだ。でも、私たちが生きる自然は、実に美しく奥深く不思議で神秘ですよ。多くの命が芽吹くこの季節、そこに身を置いているだけでハッピーな気分になってしまうのは何故でしょうか。

幹事より追記:

以下は、たまこ寿司のふりかえりで披露された参加者の作品です。季語かぶり、字余り、破調、何でもOK。夏井先生に叱られたっていいじゃないか！の大人の言葉遊びを楽しみました。(投句順。表記原句のまま。無許可掲載なので無記名。一人で複数投句はまとめて列記。)

すみれ色の涙 そう言えば岩崎宏美はよかったね

やまざくら かえるがかえる 狭山かな
やまざくら 心に写真 やきつけて
水道の すみれこすみれ のじすみれ

風さやか 芽ぶきはじまる 雑木林
トトロの森 また芽ばえみて ヒザ痛む

水ぬるみ 卵かいどこに 消え去りぬ

青空に ベールをかける 春霞

はるの陽に ごまあえに最摘 ヒヨコグサ

変わり種 サクラながめて 友を偲ぶ

かたくりに いぬしでこなら たまこずし

ウワミズと エドヒガンや イッポンザクラ

青空に 木々の新芽の あざやかさ

コロナ禍で チャンスは今と 木の芽時

水ぬるむ メダカ跳ね光るさざなみ
水ぬるむ オタマくるくる 田のたまご
早みどりと 桜出会いて 山笑う

春うらら 狭山富士に 登ったぞ
水の道 ゴルフのかたわら ノジスミレ
春霞 富士は見えねど 塚のぼる
多摩湖畔 右も左も サクラ咲く
サクラ咲く 低山はいかい みな笑顔

田がぬるみ 卵にたくす 山がえる

マグノリア においにさそわれ 食すすむ

春の陽を まぶしと霞む 富士の峰

其処此処に千本槍も春の陣
球春にサクラもエールの花盛り
陽だまりに夢もうつつのノジスミレ

今が春 大人の遠足 トトロの森
クロスケの 正体見たり イチョウウキゴケ
覚えたかな？ 翼のないのが ノジスミレ

春池に まっくろくろすけ メイちゃん笑顔（トトロの森で、小さな子供たちの驚く顔を見たいなと思っ
て）

青空に ゆうゆう満開 山桜（ああいう姿のヤマザクラは初めて見ました）
センボンヤリ 花裏むらさき 証拠撮（裏がはっきり紫色なのを撮れたのも初めてです）

見渡せば 萌黄の丘が 街をのむ